

島田正治

メキシコと日本を結ぶ、ひとつの絆ともいえる組織に「日墨協会」というのがあり、設立されてことし五十周年を迎えた。それを記念しての行事、催しがこの七月末に集中して多彩に開かれた。

「日系アーティスト展」は絵画、彫刻、焼物、生け花など二十五日から十日間、メキシコ市では一番高いといわれる五十四階建てのビル内、国有石油会社所有 PEMEXでその一階二階三階のロビーが展示場となった。日系人、合わせ二十数名の参加、わたしは七点の墨画を出品、黒いボードに作品が収まり、その一点一点に照明が当てられ映えた。

オープニングには日本国大使、PEMEXの社長も参加、あいさつがあった。列席者は二百名ほどだった。

\*-----\*

翌々日の二十七日は、五十周年記念の式典が日墨協会内の日墨会館で開かれ、この日はメキシコ大統領 FOX氏を迎えた。そして祝辞をのべられた。一国の大統領が参加、列席というのはたいへんなことで、その護衛官約五十名、テレビ、ラジオ、新聞などの報道陣が約三十名、会場は日本人、メキシコ人で埋めつくされた。三百名の参列者。

約束の九時ぴったりに大統領の姿があらわれ、入口から会場を一巡する型で参列者ひとりひとりに握手された。わたしもその恩によくしたが大統領は長身で2メートル近い、190センチはゆうにあり、堂々とした体、風格があった。その握手した手は大きく温かった。

わたしたちはメキシコ市から離れた六百キロほどのハリスコ州、チャパラ湖畔の小さな村に住んでいるので、なかなか大都会に出る機会がない。いなか暮しといってもよい。だから、たまにこのような大勢人の集まるところへ出ると疲れるが、しかし、このチャンスに知人や友人に会って積もる話に花を咲かせるのはよい。日本語が自在に話せる。

\*-----\*

「日墨協会」には二か月に一度、広報誌が発行されている。その題字は妻の和子が書いた。わたしも毎号、連載の形で「墨と太陽」を文で綴っている。もう二十回近いが、良質紙使用、オールカラーでスペイン語と日本語の二国語で印刷される。総ページ数約三十ページはある。

とにかく絵を描く以外に雑用とてそう多くないが、些細なことでは毎日何かある。早起きの暗いうちに何かするのは習慣化してしまった。夜更かしはしない。早起きがモットーのひとつである。気候のちがいで、毎日、昼食後のひるねは欠かせない。そのおかげで、また、夕方以降、何かしようという気になる。

(つづく)

ご意見・ご感想はアルテ・シマダまでお送りください。